

おわりに

今年も7月の2日間、熱い心意気を持つ人たちの集いを、無事終えることができました。文字通り暑い日でしたが、エアコンの効いた会場には、外気に負けない熱気が渦巻いていました。このワークショップを育てられた森清和さんが急逝されたため、急遽私が実行委員長に指名されましたが、多くの実行委員各位や事務局の皆さんの働きにお任せする中で充実した2日間を過ごすことができました。心から感謝したいと思います。今年7回目を数えたこのワークショップは、20世紀の終わりに始まりました。私はわが国の20世紀を、国主導による画一化の完成の時代と位置づけています。もともと多様な自然を持つわが国でありながら、長く続いた水田農業の追求は、全国に似たような農村風景をつくり出しました。20世紀にはその上に工業化・都市化の流れが加わり、経済成長による財政の富裕化は、まさに国主導の地域整備を行き渡らせました。その結果、全国に同じような都市の姿が出現したのです。この間、個性ある小都市は衰退していきま

した。川に対しても、治水・利水という単純なものさしで、整備・開発が進められました。都市の中にやさしく息づいていた水辺空間すら、型にはまった無機質の姿に変えられていったのです。森さんはこれを「白い川づくりの悲劇」と書かれています（『私たちの「いい川・いい川づくり」最前線』p.20）。しかし、20世紀の終わりになってつかの間のバブル経済が起こり、かえってこの頃から、人間らしくあることを考える人が増えてきたように思います。都市から田舎へ移り住む人も増えてきました。そして川というかけがえのない存在と「いい関係」をつくるのが、今まで忘れていた別の豊かさだということに気づく人が、ぐっと増えました。

このワークショップは、川と「いい関係」をつくっている人たちの、最大のエネルギー増幅の場だと思います。これだけ多くのグループが集まるのですから、入賞を決める方法についてはいつも批判が出ます。それに応じて、公開選考のやり方も微妙に変えてきました。また今年も、最終選考に進んだグループに、入選という形で対応させていただきました。しかしこの難しい選考過程の中で、それぞれの活動のどこに貴重な光があるかが、まさに多様な視点と論点で議論されることに、そしてそのやりとりをそれぞれの方がそれぞれの感性でキャッチされるところに、このワークショップの醍醐味があると思います。背後にある大きな価値を共有する人の集まりだからこそ、このような会が成り立つともいえます。今年も選考に関わりませんでした。私が心の中で支持していたグループがいくつか敗者復活から入賞したことを、密かに嬉しく思っています。

来年は、以前グランプリに輝いた矢作川の皆さんを中心に、愛知県豊田市でこのワークショップが開かれることになっています。この会が東京以外の場所で開かれることはすばらしいことです。心意気を示してくださった愛知の方々のヒューマン・パワーを受けとめ、川とのいい関係を携えて、ぜひ豊田に集まっていただきたいと思います。

「川の日」ワークショップ実行委員長
宮口 侗迪

●第7回「川の日」ワークショップ実行委員会

北海道地域	長田 光世	松井 正澄	中村 文明	美甘 頼昭	池内 幸司
荒関 岩雄	風間 真理	松岡 恒司	裕 さくら	四国地域	石渡 幹夫
菊池 静香	神谷 博	水谷 正一	原 隆一	西内 燦夫	入江 靖
工藤 達人	木俣 知大	三井 元子	星島 卓美	福留 脩文	岩立 忠夫
熊木 朋子	紀陸 富信	宮本 善和	福澤 浩	福永 泰久	海野 修司
後藤 三郎	君塚 芳輝	村瀬 誠	真鍋 尚司	山田 佳代	大平 一典
嶋田 浩彦	木村 尚	恵 小百合	宮口 侗迪	九州・沖縄地域	尾澤 卓思
中村 太士	桑子 敏雄	望月 史郎	森 誠一	赤坂 宗昭	上総 周平
山内 忠明	小堀 洋美	矢萩 隆信	森山 奈美	磯辺 信之	金尾 健司
東北地域	品田 穰	山道 省三	近畿地域	上野 敏孝	栗原 秀人
小山 隆春	柴田 敏隆	山本 耕平	大滝 裕一	榎本 敬子	五道 仁実
金子 博	島村 雅英	吉村 伸一	嘉田由紀子	岡 裕二	佐藤 寿延
関口 怜子	島村 勇二	霊山 智彦	片寄 俊秀	幸野 敏治	清水 享
高野 公男	白瀧 敏弘	渡部 一二	川上 聰	児玉 澄子	清水 裕
高橋万里子	進士五十八	中部地域	澤井 健二	崎山 正美	関 克己
新川 達郎	菅谷 輝美	石月 升	高畑 正	島谷 幸宏	谷本 光司
水戸部浩子	田中 栄治	入江 隆彦	上田 豪	駄田井 正	泊 宏
関東地域	田中 哲夫	延藤 安弘	中農 一也	田中 秀子	藤芳 素生
荒木 稔	田中 信明	大熊 孝	朴 恵淑	土井 裕子	藤田 光一
石田 幸彦	土屋 十囀	小田 稔彦	橋本 夏次	西江 重信	古川 博一
磯 ちず子	鏑山 英次	風間ふたば	福広 勝介	濱崎 勝	細見 寛
井出 隆雄	堂本 泰章	北村 眞一	遊麿 正秀	原口 泉	光成 政和
犬山 清史	内藤 裕子	木村 精治	中国地域	右田 いくみ	宮武 晃司
伊納 浩	長野 正孝	近藤 朗	池田 満之	村田 幸博	宮藤 秀之
大野 重男	萩原なつ子	相楽 治	小田 博之	山口 徳雄	森 吉尚
岡村 直樹	廣崎 芳次	桜井 善雄	小谷 寛二	吉田 迪夫	森本 輝
沖 大幹	百武ひろ子	杉山 恵一	竹原 和夫	関係機関	安田 実
小倉 紀雄	福富洋一郎	竹内 礼子	友延 栄一	足立 敏之	(計156名)

● 構成団体：NPO 法人 全国水環境交流会，NPO 法人自然環境復元協会，社団法人日本河川協会

● 事務局：NPO 法人 全国水環境交流会 山道 省三

* 第7回「川の日」ワークショップは「河川整備基金」等の助成を受けています。

次回開催は・・・第8回「川の日」ワークショップ・矢作川(仮)

次回 2005 年開催予定の第 8 回「川の日」ワークショップは、愛・地球博(万博)期間中の愛知県豊田市で開催されます。開催要領は従来どおりですが、第 4 回「川の日」ワークショップで「グランプリ」となった「いり川」矢作川を体験してもらえるよう新企画を検討中です。行ってみよう！矢作川！！

○日程：2005 年 7 月 16 日(土)・17 日(日) ※18 日(海の日)はエキスカーションを予定

「川の日」ワークショップは、各種助成金等を受け、「川の日」ワークショップ実行委員会が主催・運営しています。開催・運営につきましては、次回以降も企業等からのご支援を頂きたいと考えております。詳しい内容等につきましては下記事務局までお問合せください。

また、過去の開催の記録集、選考資料、次回応募要項(2005.4 月頃募集開始)等をご希望の場合も事務局までお問い合わせください。

2004 年 11 月発行

第 7 回「川の日」ワークショップ実行委員会

事務局：〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 1-20-14 神宮村 301 (NPO 法人 全国水環境交流会)

TEL：03-3408-2466 FAX：03-5772-1608 E-MAIL：kawano@mizukan.or.jp

「川の日」ワークショップホームページ <http://www.mizukan.or.jp/kawanohi/kawanohi.htm>

*本書は再生紙を使用しています